夫木和歌抄

巻第十一

1765
11

128

門 利4
1765
11
巻

文永和哥部第十

秋部二

題

萩　女郎花　薄

苅萱　萩　蘭

草香　秋花　槿花

秋野

伊豆国韮山代官所

萩　三行分トル

ゆきのしたの

ものをおもふとしらくもの

初

戀

ものをおもふとしらくもの

ものをおもふとしらくもの

ものをおもふとしらくもの

458

恋部中人歌

民部卿

[illegible]

為家卿百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸

万十

[illegible]

西法二年百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

437

方十 さゝなみの野人の秋はぎ河みたいに風さうるまりてをさゝじ

郡ふ和　　丹波國人

方八 あすか川ゆきなれぬれば秋はぎはいとゝあめふるをすきさうじ

遠永元年伯爾卿家歌合

続千秋上 日の龍はなをさもあへとあとう川ゆきのをはぎの白波

文永二年白川院十首歌

旅人のゆきなれぬとうのこゝろをいろふる袖のをうる

郡尉和　　中納言家持

方八 たの原しの野をゝのあさ萩はこの時のあるさ嘉はゝ

方九 ゝや人の袖つゝさゝろとあさ萩よあるひとゝさゝ露のをゝ

よゝこひしらた

源光行

方十 秋はぎ日ゝたにあさあるゝゝゝのをゝ秋はぎ

海川院四百首　　前中納言定家

ゝゝ原ゝの野ゝ露ゝゆけは秋はぎのむすゝ衣ゝゝ人ゝゝゝ

正治二年百首　　源師光

あゝ原ゝの野ゝのあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

郡尉和　　ゝ市黒人

方三 いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

海川院四百首　　大納言師教

久安百首 常盤院御家

郭公

ほとゝぎす　なくこゑ　ちかき　ゆふべ　ゆ　ゆ　ゆ

[illegible]

万十 あきつけて[illegible]

万九 [illegible]

万十 [illegible]

万八 [illegible]

人丸

[illegible]

石川廣成

万十 [illegible]

[illegible]

人丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

歌集

人丸

万十 海ならず[使]ぬ[ぬ]ぬのたくなわ[ぬ]ぬ[ぬ]ぬ[ぬ]ぬ

大嘗會百奏百首歌

前中納言道房卿

[illegible]の山の[illegible]のあさぼらけ　蘆

西園寺入道前太政大臣

[illegible]

千五百番歌合

西園寺入道前太政大臣

[illegible]

久安百首

[illegible]の[illegible]の[illegible]　萩

左京大夫顕輔

常盤井殿歌合　源仲正

[illegible]　行

家集　駒

[illegible]の[illegible]　同

家集

[illegible]　萩

[illegible]

[illegible]　同

[illegible]　風　秋上

[illegible]

家集二十五百首萩　民部卿

[illegible]

大治元年八月摂政左大臣家歌合　恋

462

源雅光

天永二年七月四日内裏歌合 同

遠長二年八月十五夜三首歌合

恋

秋夜

次泉式部

永久二年内裏歌合

現存六

秋夜

後拾遺

秋

同

露

[illegible]

和歌式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

順集

[illegible]

秋部中　　中納言家持卿

第十　家持集

[illegible]

天長二年[illegible]

秋[illegible]

[illegible]　　元真

[illegible]

[illegible]　　[illegible]

錦

[illegible]

秋部中　　任卿

第六[illegible]

[illegible]

寛治八年[illegible]　　[illegible]

萩花　　源盛雅

[illegible]

[illegible]　　恵慶法師

[illegible]

秋部中

おとこ

[illegible]

郭公集并ゝのそらいとゝ百首歌よみて

後拾遺 秋上

方代

[illegible]

為家法師

為氏法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文安元年文社百首　民部卿為家

[illegible]

立十首

[illegible]

天永三年四月合萩　[illegible]

[illegible]

百首　[illegible]

[illegible]

[illegible]

洞院摂政百首　[illegible]

[illegible]

建保六年十五首合　[illegible]

[illegible]

文永元年九月十六日内裏合

海辺月

[illegible]

文治六年五社百首　[illegible]

武士

ものゝふのやそうちのうちにてなれるうたのうち

寛元四年十禅師の会歌 経朝卿

右兵衛督

あつさうつるかものこゑをきくときはたれにかはれるうたのうち

陸九条内大臣家歌合

らくらくたちのそのあさつゆもとそうつるはぎのうへの

寛元元年内裏の歌合 衣笠内大臣

契をとしすぎのうつるはぎの葉のうつるはてにうたのうち

ちきり

新院入内二月祝し歌合 前

禅性法師

うつるなくすゑのいろめくそのあるはつ風

ようしん

一月白露をとゝのへかねて萩の花

遠忌七年歌和歌会 前

源仲正

うつるとてさきてさかりのはるれはいさこゝろあてにおもふ出てそきあそひ

正治二年百首 源師光

河ゝをみとりやすらんの野へにはうつろひそめし萩のそつ

家集

大納言経信

白露のをくにはあらしぬれぬれはたれかはるゝ人のこゝろ

建長七年二月十三日　　権僧正定為

花さくらへ行てやみまし　そのこゝろをよめる歌

春日四首　　第中納言為世

春雨ゆゑ山路はくれぬ　ひさかたの雲にそなれる

初瀬四首　十月南院百首歌

　　前大僧正

下もえて花ちらすなる　ちるまをたのみ

千首

咲初るいろ世のこゝ　歌百首歌

　　民部卿為家

文永五年毎日一首中　同

きの月ゆ　老　てしるきにてさくやこの日の花の蕾

同七年毎日一首中　同

をちこちのやまのこゝろ　春のひかりをひかりそへ

毎日一首中　同

春山のすゑの歌　ちり　ゆふ　ゆ　ま　ま　ま

千五百番歌合

[illegible]

建保三年九月百首　西行法師

小萩さくの西ちかき所にて

月四年内裏歌合　月

旅人のころもの袖にもれぬるは萩のむすぶ露

百首歌中

[illegible]

百首歌中　藤原為家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六四

やとしのあけぬとしのはるのはつかのひ　祝

昌泰元年　三月院宮合女御也

ときはのしらべ

蔵人方下　あさくものつちはのしたにたちてこのうてしあるとき

蔵人方下　秋の野の女郎むらさきわけしぬれしゆへ神やもしらん

蔵人方下　もとをしられのあるうん女御也　人まろ也　のえさしたる

なのあさ

女郎花　をりうるにまつ　のしたにあるあとをなくらかるさ

同三年　文象関白家和歌合女良也

うつろふるまつ　所　ありしもとの　のつゆとはしれうん

延喜十九年八月　蘆女御宮合女御也

白露のしたにそうしてそうしをとりとるとうん　こと　きみ

家象　家象女御也　お

昌泰元年　元吉

昌泰元年　文象関白家和歌合女良也

久安百首

永久　久安百首　仲實卿作

久安百首

忍　あひしらつとうしとうしとうしとうしとうしとうしとうしとうし

家象

とうしとうしとうしとうしとうしとうしとうしとうしとうしとうし　お

霧蘭女御也

折　うす

後拾遺作

女房花

をきなとしうちくれぬとかすみたちてとしのはるたちぬ

永久四年七月十五日内裏歌合　　藤原國範

わくらはしゆふの里の女郎花　さと
ゆふ

保延四年十月内裏歌合　　藤原光忠

ひとちのこすゆふのさとの女郎花　つゆ
ゆふ

女郎花　　藤原良経

続古秋上

女郎花さくのをのしのはらの露　つち

久治六年八月十五日社百首　　皇太后宮大夫俊成

すゑつゆ　ゆふ

女郎花の野へのあきかぜ　ふく

播磨院少納言百首　　中納言國信卿

女郎花　伏見　ゆふ

女郎花のさかりにあへるのもとにたちよりてすゑつゆ　こ　せね

ふくあきかぜ　野

女郎花　　中納言師時卿

女郎花ひとりてはなをたをりてしか　ひとな

秋はぎ　　源経家卿

秋はぎのしたはのこすゆふ露　　藤原為家

建久六年十月十五日内裏歌合　　藤原忠兼

女郎花　とこし　お

女郎花ひとりのこすゆふ露　　藤原家隆

永仁二年十月太神宮御百首　　藤原忠兼

たゝひとりさうちの人の歌をもつとめ人いあつまり
はしめ判ぎ云ふ歌ども
掘っていあつまり給ふ人の歌ども
さ〻ぎすと云こと

秋四ノ中

中務卿具平親王

春もすでに過ぬるかとの歌
院の御四倉の歌ども　如願法師

古今の見りきの歌のことをひらつめるさまよみ給ふ

大蔵卿　倉橋定行

歌ども

大長三年八月廿四日社ノ合歌ども

大納言藤原実資

順家集

春の歌

順

順家集

春の歌

中納言藤原

秋四ノ中

秋三ノ中

大納言藤原

新撰宝
[illegible]

[illegible]

[illegible]

444

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠保三年九月廿五日内裏歌合 女郎花

武蔵野の

[illegible]

秋中

藤俊

あきはぎ

あきはぎ[illegible]

新秋上 拾

久安百首

大納言公実

[illegible]

文イ

永万二年七月内大臣家歌合 女郎花

錦

[illegible]

[illegible]

永久四年七月内大臣家歌合 女郎花

[illegible]

後白河院御製

[illegible]

遠治二年八月十五夜三首歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

聲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

499

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂社百首

[illegible]

文治六年文社百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千五百番歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

北野会

おもしろやまことにうつれるこころかな　女郎花

百首　　糸遊　法師

うさぎうまこそもあるべきを　女郎花もしるしるしさきにかこつらん

保延四年住吉歌合　　左家定朝臣

紙子ぬぬ人よりとりとりと

秋くれハ浦ゝ[妻]ちるこのくゝとをしてあさつゆまてこらえん

郭ふ紀

七十六 秋の田ハ穂ゝたひらる女房もいかりる人やらめをまきえん

法釈尼

よゝひとしゝを

六六 女房むらさき[咲]殿ゝ[日]ゝ[日]ゝ[思]ゝ[君]ゝ[聲]ゝ[お]ゝ[せ]ゝ[にと]ゝ[ほ]ゝ[ね]

万七 女郎花[花]

万十一 秋ゝひのあさけゝ[日]ゝ[思]ゝ[君]ゝ[聲]ゝ[お]ゝ[せ]ゝ[にと]ゝ[ほ]ゝ[ね]

原ゝ女房右衛門合　左一位良教

千首合

郭々内家卿

秋かゝるあさけゝ原のゝ[お]ゝ[え]ゝ[ら]ゝ[お]ゝ[せ]ゝ[にと]ゝ[ほ]ゝ[ね]

ゝかゝるこの山ゝとして女房ゝ[お]ゝ[え]ゝ[ら]ゝ[お]ゝ[せ]ゝ[にと]ゝ[ほ]ゝ[ね]

後拾遺

ゝゝゝてゝゝゝこハ浦ゝ[女郎花]ゝ[お]ゝ[え]ゝ[ら]ゝ[お]ゝ[せ]ゝ[にと]ゝ[ほ]ゝ[ね]

永久二年六月女房堂百首合　女房

よゝひとしゝす

秋くれハゝてゝゝゝ人ゝと女房ゝゝのいろゝすゝゝゝ

かゝゝゝゝひの野ゝの女房ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

千首中

ゝゝゝたのゝゝゝゝゝゝゝ[た]

民部内家卿

480

箱根

中務のみこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

門跡社寺領 上西門院宮家

[illegible]

薄 三行分トル

[illegible]

人丸

[illegible]

千首和

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋風にたなびく雲のあはれ[か]なる
はてはいかなる[いろ]ものとかは
永久四年百首　　弁[薄]紙伯耆仲[ぬ]
人こころ[を]よりはかなきものとかは
建長八年百首合　　反九条内大臣
咲[そむ]かずとてすぎゆくかぜ[せ]の
花[あきさき]の色のうつりにけるかな
仁安元年百首　　同
秋[しと]の野を吹[せめ]しぼりてうつる
花あるかぜ[かぜ]
住吉社歌合　　恋　　弁紙伯耆仲[ぬ]

いくよとなくいかなる[せ]ものとかは
四条宮寺中　　反皇嘉門院
新続古秋上
うらみてのみ入[せ]のおもかげ[と]
嘉安三年七月左大臣家歌合　　恋
うらみてのみ[を]おもかげ[か]
法性寺入道関白家冊子
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
恋の色[を]はつけはてぬ[ぬ]
心[ぬ]ちの[を]ぬ[絶]ぬ[吹]
恋[を]　　左大臣
南内百首奇合　　基藤卿

あかつきの花をとはゝ神よ浪こすゝ山おろす花

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

春ひさしあるこの大殿はなのすさたるまゝに神のゝ世

いくよをかへんいくよのをのゝ志のとゝ出とやはらん

ちり雨ゝいまゝこの殿へのむかしの春しくれる浪のとそこる

ゆゝ集秋十首中　常門院ゝ歌

花すゝきちるゝよ部ゝひしゝ手すいまゝ聲

部屋和

ちるゝゝ浪のゝ物をとゝめあゝたれそゝ

ゆゝ集雜部　藤原経平卿下臣

拾遺正五位

なのしをゝ小殿の秋は花すゝきちるゝいとあはれ

ゆゝ集　中務つのゝ

あまちる川ゆゝ集の花のをすゝきたもとゝ寄てこゝろく

建久元年百首　藤原為家

器物をゝ為るゝ秋の風ゝ雨新おもかけて

建久元年七社百首　民部卿為家卿

ちゝ出てゝゝ為のわたゝ風神ゝ秋のゆゝ

風吹ハ濱松中殿のゝ為ゝ

嘉安元年七月右大臣家合歌

藤伊徳

初瀬川つもり侍りを時雨はなほ山の尾花波よる

貞和二年九月百首　民部卿

白露の草花はなほ山のすそ野にとまらぬ秋の中勢の月

白根岳の寺秋暮

かくれもてつさあけのそらの雲かはいとなほ渡せる滝の流

保安三年九月内大臣家の合歌

源内大臣

門さむしこの夕ぐれの秋風に波立ちそへる滝の流

永久四年七月殿上の合歌

三宮相模

あきの夕ぐれ

永久二年右衛門督家の合歌

源重仲

家集の花は風に散りぬるこそ秋の夕ぐれ

花落ちてこそ見れ秋の夕ぐれ

永久二年右衛門督家の合歌

藤原為忠

はつ出て山ちかくとすむ人の花ちりぬれば秋の夕ぐれ

同四年七月忠盛家歌合　源経兼

夕ぐれは秋の月のひかりにもあはれとぞ思ふ

百首歌

登蓮法師

ちりぬれば秋の夕ぐれ

永久四年七月右兵衛督家の合歌

藤原国紀

いつしかと待つのうちのうれてすさひもらく秋よりぬるかな

元永二年七月内大臣家の合歌

藤原仲実朝臣

たひけふとひすひてゆくんうさとのすすきのうわのうれうつろ

永久二年太政大臣宣方の合歌

よこ記そしらぬ

住吉社の合歌

藤原仲々

ちりのこひとしこの西の雲のうへの高ねのうへのうるはしかな

ちりのこひてもの思ふ秋のうるはしかな

源公忠朝臣

ちりのこひてもの思ふ秋のうるはしかな

ひとりのこひてもの思ふ秋のうるはしかな

ひとりのこひてもの思ふ秋のうるはしかな

家集八月つごもりに

藤原重基

しらつゆのうへにすすきのびさる人よりあひてかくれ

藤原重基

花すすきかれもしつるたけゆゑ高てらけるとんつる

藤原仲実中

いとすすきぬるれてあるものの人よりひやすきうち

三十六人歌合

平忠度朝臣

花すすきをぢくさかりてさとをとこ

家集

和歌所

人をおもふ心はかりはいかにせむ薄

はかりはいかにせむ

はかりはいかにせむ

はかりはいかにせむ

仁安三年摂津国良平食堂花判定像

聖徳法師

さゝひめの神とゝれハ山すそ野とゝまりのくもゐ

家集

西行上人

見まくさゝゝのくゝ薄ゝれゝまてゝたゝのゝ山ハいとゝさゝゝゝ

行きなつてかしくあゝゝれの浦ゝゝゝ月の出ゝゝゝみゝの白ゝ

文治二年百首　前中納言定家卿

思ふこゝろ浦ゝゝ落ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

五月十八日又首西とゝゝゝゝゝゝゝゝ　同

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

487

久安百首

[illegible]

嘉安五年三月重家卿[illegible]合歌

紀康家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

千[illegible]百[illegible]合判[illegible]

[illegible]

百首[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

488

建保三年九月百首　後三位花恵々

ひさしかりし月ゆゑ

[illegible]

後鳥羽院御歌

[illegible]

建保三年九月十三日関白歌合

後鳥羽院御歌

[illegible]

ふるいとすさまじうる秋年を

[illegible]

建保二年八月廿八日当座歌合

後鳥羽院御歌

[illegible]

[illegible]

百首歌

[illegible]

[illegible]

正治二年百首

[illegible]

小侍従

[illegible]

[illegible]

衣笠内大臣

[illegible]

[illegible]

藤原定家卿

[illegible]

文永四年毎月一首中

[illegible]

同八年毎日一首宴中　同

秋萩のうへにかゝれる露のいろを
わきへうつす村雨の波そつろよりてゆく

[illegible]

秋宴中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋分中臣[illegible]

[illegible]

人丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

491

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春歌四の六人はまうしはしめ侍りしとき四条のつかさ

山家

秋もとゝくゝらそよめくくさ葉のもとすゑとなりのくやしの音

花山院御製

はつ秋の秋門の山のかゝる雲のちゝとてとゝ

百首御歌

花落来ふきをくるゝ風にかゝる雲をかろく

俊安二年九月内大臣家百首歌

春歌

秋もとのはゝ吹まくゝなれいのくれ竹のうゝそゝ

二条院御製

はつ判ゝ春後ゝ春のおくれ

みゝゝゝ山もとかくゝゝたゝんおそれの山もゝ

見ゝゝ山ゝ月ゝ野ゝへよハ雲のうゝそゝ

とゝゝ乱ゝ色ゝ春の花の風ゝちゝ雲ゝうゝ

なゝゝゝ行ゝれ秋のおくるのゆゝゝゝ

みゝゝゝゝゝゝえ入て行ゝ

ゝかゝゝの山ゝハ雲ゝゝて行ゝ

遠永元年和歌百首合の内の花

後鳥羽院御製

横雲のくるゝ山の松ゝ人ゝゝゝゝ色ゝ吹おし

文亀元年七社百首　武人　田家卿

河原社　[illegible]

[illegible]

秋の野の[illegible]

同

三十首　内裏歌

[illegible]

[illegible]

或抄イ

[illegible]中

同

[illegible]

文永元年九月十三夜会　[illegible]

大納言資平卿

[illegible]

久安百首

花[illegible]

日吉社法楽百首

[illegible]

秋のくれ　光厳院入道三宮のみこ

一[illegible]

大治二年八月廣田社[illegible]

大僧正[illegible]

[illegible]

4924

為頼三位卿百首歌合　弘安四年

花をたづねてはるのやまぢにまよひぬるかな

貞慶三位百首歌　月

うしとのみそよいさりの雲ゐかな

千首哥

春をとうる雲のたなびくのあさぼらけ

みをせ

藤原為氏

春来山中花

ちるものとうらみ思ひ吹ぬれば

なをたのもしかりけるかな

家集前代

光俊朝臣

つりをの氣吹ふるる花ゆへ

ちるをたのもしかりけるかな

長方

ひかりをにおりてこれいかに

ちりてはるのにおりてこれいかに

雁

ちりてはるのにおりてこれいかに

ちりてはるのにおりてこれいかに

寒

4　前栽　三行分ハ

三字ノ

刈

尾花散

雲

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

ちりはてのちるやはるのはなのかげ

鶯

遠村百首　月

春雨やふりてくるとはしらねども

文治二年百首

ちるはれは庭のうぐひすなくなり

人

芦

くもの百首　六月

新勅撰門院御歌

秋きりに世をひさしくなりてこしかたのこと
文永四年毎日一首中　藤原為家卿
こころにもあらでうきよをすぐすかな
家集秋の中
西行法師
秋風にたなびくくもはよはかりけるやのうらにすむ月
家集
信実朝臣
おもかげにうかべるかたのうらにすむ月
寺院名所歌合　草
春京成尼
かりそめのわかれとおもふあはれとは
つゆのいのちをかけてなりけり

続人歌
百首中
風ふけばこずえをはらふ秋の月
家集
法師
おもかげにうかべるかたのうらにすむ月
藤原為家
思ひ草　草合
かりそめのゆくすえはかなかりけるかな
家集
秋風にたなびくくもはよはかりけるかな

萩

三行分九

元真

[illegible]

法眼[illegible]入道関白

秋四首

[illegible]

北泉院[illegible]の[illegible]

[illegible]河西前[illegible]

重[illegible]

玉葉四

萩の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十郎百首中　　住吉社奉納

[illegible]

秋部中　　和泉式部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文治二年百首中　同

[illegible]

[illegible]

わさきあるはつくしの[illegible]

大治三年八月廣田社の合歌

[illegible]

[illegible]

久安五年八月[illegible]

[illegible]

[illegible]

498

[illegible]

[illegible]

[illegible]

全二中

なかもあるをさてなおあらしこのふかきをひとりもられぬ秋のそらかな

寛治二年百首歌 従九条内大臣

つくしあきはのうきかぜにはるかぬ山里にすむ人ぞあはれなりける

千五百番歌合 左 後鳥羽院御

またもこの秋のもとをなにたてにかりにとしのくれぬる

あさぢふやさのまろやのつゆ人にとはれぬ秋の月

建保三年九月百首 左 家康卿

秋ぞかしやすもたつとしとくるのかはさらぬゆくゑ白波の里

西治二年百首 源師光

ひとりのたまのかりにあるかのそらくもるかの月

従九条内大臣家二年三月お秋

第中納言定家卿

秋のあふをまちてやすらふあきはぎのうへにかかる月のそらかな

従二位家隆卿

秋のあふをまちてやすらふあきはぎのうへにかかる月のそらかな

文治六年女院入内屏風 白川大納言定房卿

月をまちてやすらふ秋のつゆ人にとはれぬ山のかなしさ

家業秋月

あきはぎのうへにかかるかなしさ

従二位家隆卿

都前門院御屏風 右衛門督通具

500

萩の葉の風をよめる　　皇太后宮大夫俊成

萩をこそ千載
わけ袖にかけてなびくらめ　何
秋の風にぞ露はこぼる

思蓮法師

ゆくへもしらぬ
ものとこそ
思へ
哀
わかれのみ
ぞ
ゆく
秋の
ひとりすむ

草
蘆
を
ながめ
ぬ
秋
の
ゆふ
ぐれ
の
ゆく
へ
を
ぞ
思
ふ

弘長元年百首萩　　法二位家歌

ながめつる
ゆふ
ぐれ
の
ゆく
へ
を
ぞ
思
ふ
秋
の
葉
の
ゆく
へ
も
しらぬ
ものとこそ
思へ

遠長七年歌合後撰千首海辺萩

光俊朝臣

歌集

ゆく
ゆく
ゆく

秋ことにうれしきてふとふらしまてまちる
天徳二年八月右大臣家歌合に秋を思てちら
しまとりの花
元輔

わきもこをとはばとゝはゝまもなくこゝろ
はなれて
播磨国の河百首
後拾遺

ちはやふる神もまもるらしもろ
とりの
大宮右大臣家歌合
藤原公任

たつ田山すそのゆきはきえぬらん
天永二年七月内大臣家歌合
源俊頼朝臣

ゆきとけてなかるゝ水のこゑ
はるかに
藤原

きてみれはわかえの山のあさ
ゆきの
元輔

ひさしかるへきものとふりしきにうたれ
ぬ
寛和二年内裏歌合
僧都

ゆきのゆるりふりつゝにうたれぬ
藤原

ゆきのゆるりふりつゝにうたれぬ
藤原

ゆきのゆるりふりつゝにうたれぬ
藤原

蘭とうんとうとはうゑれハ真鶴詩
夢新蕙姫暁枕莫とつくまりうれうの
やわらんとゝ

千五百番歌合

那須兵庫

ゆゝ鶴ゆゝしハさゝとうゝ
はゝの判ゝ者ゝ文ゝ文ゝ
其ゝ乃ゝを蕙姫とゝ
蕙をゝゝゝゝゝゝ
蕙ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

文治六年五社百首　皇太后宮大夫俊成

ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

文永元年七社百首　藤原為家卿

ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

大治三年八月廣田社千合蘭亭

源仲房

ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

建久元年五月重家卿千合　大江盛房

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文集前頭史有蕭條物　老菊叢蘭兩

三叢

[illegible]

[illegible]

[illegible]

草番　　有家卿

文永四年百首番　　三行分ト八

春恋

秋の夜もしらぬ心のあくがれ
二条院内大臣
知ぬ世のうらぶれ物の家ハ
かなしき
かなしきの花院大臣

元真

秋夕　　三行分ト八

建長五年毎日一首中　　仲花　　有家卿

文永四年毎日一首中　　同

建一字三十一首　　家中納言宗家卿

秋の夜の月の光ハ
いけ
中

建長八年百首歌合　法一位良教

秋の野をよそのさくらのはなのさかりかな

建久元年和字百首歌合秋の花

西行法師

あさ露の消てくるしき世をうらやみぬ

正治三年百首　　小侍従

ゆふされば秋の野風のたえまをもとはぬ人の袖をうらめし

第六袖を隆房

秋の花

秋の野はよそのさくらの花をもとりてうきかをあれぬる

ものをしらす

とりつゝ雨もすそのはぬれぬれとつゆをもとめぬ

第安三年法橋覚合秋の花

実教法師

ゆくすゑのもとたれてをりつゝのはなのかをのみ

建保三年円寂十五首歌合秋花

第中納言度歌

ひぬるひもとくもの露のつゆくもとを星をのくあるさ書

伝家卿

[illegible]

[illegible]

四条

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

509

新拾遺哀傷

槿のちるをよめる　　藤原為家朝臣

建保四年百首歌　光明峯寺入道摂政

西園寺入道前太政大臣

家集

あさがほの花のうつろふ山ぢかぜ　　法印定家

百首歌

ゆふぎりの日ごとにたつる山の端に　　宮内卿

百首歌　槿花

建長八年百首歌　右兵衛督為教

ちりぬるかたもなほかをるらん　　朝日

第六番　左勝

あさがほの花のうつろふ山ぢかぜ　　大納言

ゆふぎりの日ごとにたつる山の端に　　左

白居易ごとに槿花一日自成榮云云

心井

六二

しの井のあさがほのうつろふ山ぢかぜ　　藤原為家朝臣

あさがほ

六帖下

万八家持 伊勢集

[illegible]

[illegible]

六二ウ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六五

秋野

三行分ナル

久安百首

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夫木和歌抄巻第十三終